

アザミウマ類によるスナップエンドウの白ぶくれ症被害を低減する植生管理技術

天敵温存植物による「おとりの機能」と障壁植物を活用した植生管理技術で、アザミウマ類の侵入防止効果が向上

背景・目的

- ・スナップエンドウはアザミウマ類による白ぶくれ症が問題であるが、化学農薬だけでは被害を十分に抑制できない
- ・一方、スナップエンドウは天敵が定着しにくい植物であるため、作物上での天敵利用は困難

成果の内容

アザミウマ類の土着天敵であるヒメハナカメムシ類およびタバコカスミカメの保全を図るための天敵温存植物の植栽と障壁ソルゴーを併用した植生管理技術でアザミウマ類の侵入抑制効果を実現

通常の栽培



植生管理手法の導入



天敵温存植物でトラップ+天敵の捕食 エンドウへの侵入量減

活用する植物

ソルゴー
障壁として

ソバ ヒメハナカメムシ類を保全



ホーリーバジル



タバコカスミカメを保全

ゴマ



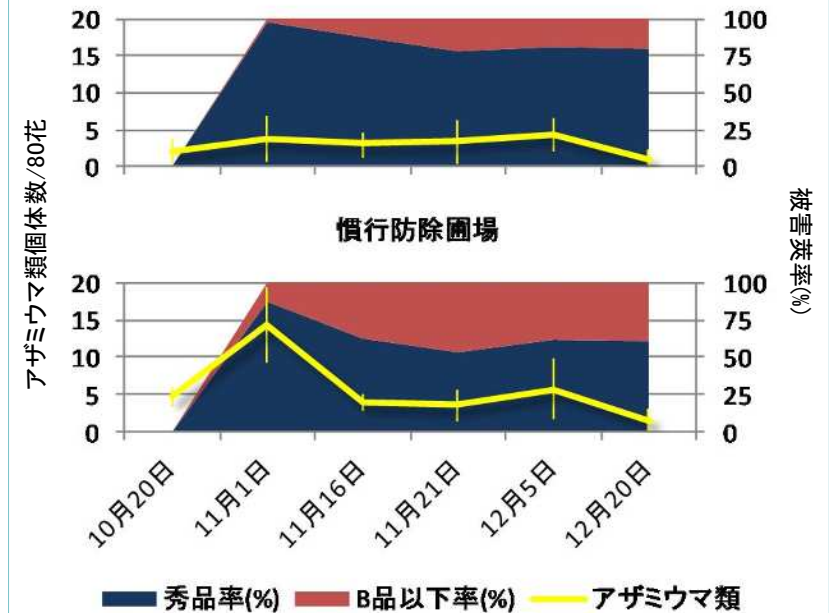
フウチョウソウ



導入メリット

アザミウマ類と白ぶくれ症を半減

植生管理圃場



期待される効果

- ・スナップエンドウの収益性の向上, 安定生産に寄与
- ・害虫の薬剤抵抗性に影響を受けない持続的生産技術が可能

普及対象・範囲

県内スナップエンドウ栽培農家

鹿児島県農業開発総合センター生産環境部病理昆虫研究室

(農食事業【27009B】)